

ぎふ発

# 人と地球にやさしく

県は本年度から市町村と連携し、家庭の未利用食品などを持ち寄ってフードバンクなどに寄与するフードドライブのモデル事業を展開していく。また、プラスチック資源の循環に関する事業や、海洋ごみ対策として清掃活動を行う「クリーンアップぎふ〜海まで届け清流!」などにも尽力。県がSDGs推進の観点から進める、食品ロス削減や地球環境に配慮した対策を紹介する。

## 県の取り組み紹介



清掃活動に参加した不破高校の生徒たち  
＝不破郡垂井町富代、同校

## 温暖化対策を強化

プラ資源循環へ  
自然素材の容器普及



県は「第3次岐阜県廃棄物処理計画」に基づくプラスチック資源の循環に関する取り組みとして、プラスチックごみを削減し、二酸化炭素を減らす地球温暖化対策を図る。製造業や、食事を提供する際にプラスチックの容器などを利用する飲食業界などと連携する「環境配慮食品容器普及促進事業」を推進。バイオマスやリサイクル素材など環境に配慮した原料からできたプラスチック容器を多くの人に認知してもらうために昨年度、県内飲食店の協力店舗で試供品のモニタリング調査を行った。協力店はキッチンカーなどの移動販売車も含めて合計75店舗に上る。店舗利用客には、アンケートへ協力の案内カードを配布。県の公式ホームページから回答する形で、容器の使用感やバイオマスなどの素材から製造されたプラスチック容器の存在を知っていたかなどを聞いた。協力すると環境に配慮したプラスチック製品が贈られた。今年は来月中旬から県内のスーパーマーケットと連携して、同様の取り組みを行う予定。

県は製造業への協力呼びかけも行う。県プラスチック工業組合、岐阜プラスチック工業、アテナ工業、県廃棄物対策課で構成した「岐阜県プラスチック資源循環推進懇談会」を発足させ、話し合いの場を設ける。対策としてバイオプラスチックなどの再生可能資源を使用した製品の普及を促進する。県廃棄物対策課の佐藤推進監は「地球の環境にとって優しい行動を取ることが大事。そのための仕組み作りを県でも広域的に取り組んでいきたい」と意気込む。

## 海洋ごみストップ 清流から始める



県は海洋ごみ対策として清掃活動「クリーンアップぎふ〜海まで届け清流!〜」に力を入れている。海洋ごみは沿岸部や海上で発生するだけでなく、山、川、海へとつながる水の流れてごみが漂着することもあるため、海なし県である岐阜県でも清掃活動の必要性を呼びかける。

また、県はデジタルトランスフォーメーション(DX)の一環として、ごみ拾い専用アプリ「ピリカ」を活用する。ピリカは清掃活動で拾ったごみをスマートフォンで撮影し、投稿できるアプリ。活動の場所、回収量などの成果がリアルタイムでウェブ上に反映されることを生かし、清掃活動を共有してネッ

トワークを広げることが狙いだ。

県は5月に県内の活動状況をネット上で確認できる清掃活動ウェブサイト「クリーンアップぎふ〜海まで届け清流!〜」を開設。河川周辺などの散乱ごみ対策に注力する重点モデル区域に高山市と不破郡垂井町を選定し、ピリカとウェブページを活用して海洋ごみ発生抑制対策に取り組んでおり、地元の高校生らも活動に参加する。ごみの分布状況調査も行っている。県廃棄物対策課の佐藤推進監は「若い世代の参加や重点モデル区域が広がれば」と意欲を見せる。

